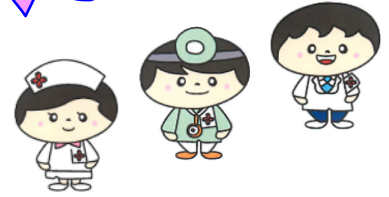


Emergency Watch

NO. 38



神戸こども初期急病センター



2014年1月受診者数：3482人

訴え

- 1. 発熱 : 2241人 (1920人)
- 2. 咳 : 1330人 (237人)
- 3. 鼻汁 : 1016人 (22人)
- 4. 嘔吐 : 793人 (447人)
- 5. 下痢 : 397人 (60人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 1072人
- 2. インフルエンザ : 731人
- 3. 感染性胃腸炎 : 696人
- 4. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 158人
- 5. 気管支炎・肺炎 : 117人

☆☆今月のワンポイント☆☆

2月に入りましたが、雪が降るなど天候は不安定ですね。早く春が来ると良いですね。今年1月は神戸初期こども急病センターへの受診者は3482人と昨年よりやや増加しています。インフルエンザ検査を施行した患者さんはそのうち1082人と約3人に1人は高熱があったようです。インフルエンザA型陽性者521人、B型陽性者は30人で、発熱があり受診された人の数が2188人もおられたことから、インフルエンザ以外の熱の風邪も流行していることがわかります。プール熱など季節外れのウイルスの増加も影響しているようです。また麻疹も増加しているという報告があり、1歳以下のお子さんの感染にはくれぐれも気を付けましょう。神戸市は現時点でインフルエンザの注意報地区です。学級閉鎖になっているクラスもまだあるようです。国内で流行しているインフルエンザウイルスのタイプの内訳は、2009年に大流行した、いわゆる「新型インフルエンザ(A1N1型)」が最も多く、次にB型、香港A型(A3N2)の順のようですが、神戸ではB型の検出は比較的少ないようです。新型インフルエンザでは急激に肺炎を発症するお子さんもみられることから、注意が必要です。日本はタミフルを世界一多く服用している国であり、比較的早期に診断がうけられ、抗インフルエンザ薬を処方されるケースが多くみられます。新型インフルエンザでは薬剤が効かないウイルス(耐性株)が日本では7%みられているという報告もあります。薬剤耐性のウイルスが、耐性のウイルスより重症というわけではありませんが、薬の効かないウイルスということですから、インフルエンザはもらわない、人にうつさないよう、日ごろからの手洗い、うがい、マスクなどの予防対策が大事でしょう。また薬だけに頼るのではなく、熱や脱水に対する環境整備や普段からの健康管理も大事でしょう。

